

インターバル実習① 《ガイドンス》

1.実習課題について

実践例を1例選定し、ケアマネジメントプロセスを踏まえ、アセスメントを実施します。

実習期間内に事業所所在地の基幹相談支援センター等※1に連絡し、アセスメント等に関する助言（OJTやスーパーバイズ）を受けてきてください。所在地に基幹相談支援センターが設置されていない場合は、市町村障害福祉行政や障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター※2に相談してください。

※1 事前に電話連絡を行い、「インターバル実習を受けたい」旨を説明し、日程調整を行う等、各機関に配慮した対応をお願いします。

※2 障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター（政令市除く）

- ・横須賀・三浦：社会福祉法人海風会 いちばん星
- ・湘南東部：特定非営利活動法人藤沢相談支援ネットワーク 湘南東部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター
- ・県央：社会福祉法人唐池学園 貴志園 綾瀬市障がい児者相談支援センター
- ・湘南西部：社会福祉法人 常成福祉会 みなせ相談支援センター
- ・県西：社会福祉法人 宝安寺社会事業部 ほうあんホッと相談カフェ

2.方法・留意事項について

（1）実践例の選定方法（以下の全てに該当する利用者を選定してください）

- 実際に自分自身が相談や生活支援等がかかわっている利用者であること
- ケアマネジメント技法を用いた支援に適する利用者であること

（参考例）

- ◇ 在宅生活、入所・入院からの地域移行に関する支援の対象者であること
- ◇ 地域の複数の社会資源を活用している（したい）利用者であること
- ◇ ひとつ以上の障害福祉サービスを利用している（したい）利用者であること
- ◇ 自らが何らかの課題意識でアセスメントを（再）検討してみたい、アセスメントについて他者の意見を聞いてみたい利用者であること
- 提出書類の作成にあたっては、実習協力者のプライバシーの保護に十分留意ください。（例えば、本人、家族、関係機関等は、イニシャルで記載するなど）

《以下に挙げる利用者を選定することは避けること》

- 緊急性の高い事例、危機介入の必要な利用者
- 本研修の期間中に関係性の構築が困難な利用者
- 本研修の期間中に会うことが困難な利用者
- 現在のところ本人のゴールがない、本研修の期間中に定まりがたいと想定される利用者

※実際の支援の中では上記のような利用者也当然おられるはずですが、今回は初任者研修の獲得目標・研修意図から、避けていただくものです。

(2) 課題について

- 実習期間中に利用者本人とかかわり、共通講義や演習（モデル事例）で学んだ内容を踏まえ、アセスメントを行ってください。実施したアセスメントに関する助言等を基幹相談支援センター等から受けてきてください。
- 提出課題は、以下のとおりです。なお、各様式はKCNのホームページからダウンロードできます。（手書きでも可）
 - ① 事例の概要（課題1-1）
 - ② ストレングスの整理票（課題1-2）
 - ③ 1次アセスメント票（課題1-3）
 - ④ ニーズ整理票（課題1-4）

(3) 提出方法

- 演習3日目受付時に1部を提出（ファシリテーター用）。
グループメンバーへの提出は演習の際に行います。
- 課題①～④を1部としてグループメンバー数、提出用1部の合計部数を印刷し、持参してください。

※ 会場内にコピー機はございません。お忘れになられた場合、受講できない場合がありますのでご注意ください。

(4) 演習3日目の研修に向けての準備について

次回の研修では、実習課題をもとにグループワーク（ストレングス視点のグループスーパービジョン形式）にてアセスメント等の検討を行います。以下の要領で概要を発表できるよう、準備しておいてください。

① 発表時間 10分

② 発表内容

- ✧ グループスーパービジョンでメンバーから助言を受けたい具体的な内容
- ✧ 本人像の要約（状況を簡潔に）
- ✧ 本人との関わり（経緯）
- ✧ 本人の（と）定めたゴール
- ✧ 本人のゴール達成に向けての課題・スモールステップ
- ✧ 本人のストレングス
- ✧ 実践例の選定理由（自らの課題意識）

以 上